

佐那河内村の野鳥

鳥類班 (日本野鳥の会・徳島県支部)

吉田 和人*¹

1. はじめに

名東郡佐那河内村は、JR徳島駅から南西方面へ車で1時間ほど、徳島市や名西郡神山町、勝浦郡上勝町、勝浦町に隣接する純農山村地域である。最高標高地点に当たる旭ヶ丸(標高1019.5m)北面に源を発する園瀬川が村内を北東に流れ、それに沿って町並みが形成されている。また、杖立山(標高724m)山麓から北流する嵯峨川沿いにも人家が点在する(図1)。概して、園

瀬川以北は急峻な地形でシイやコナラ群落、スギ・ヒノキの人工林が広がっているが、それ以南は比較的なだらかな高原状で、ミカン栽培地や農耕地が見られ集落も多い(写真1)。さらに村境となる稜線

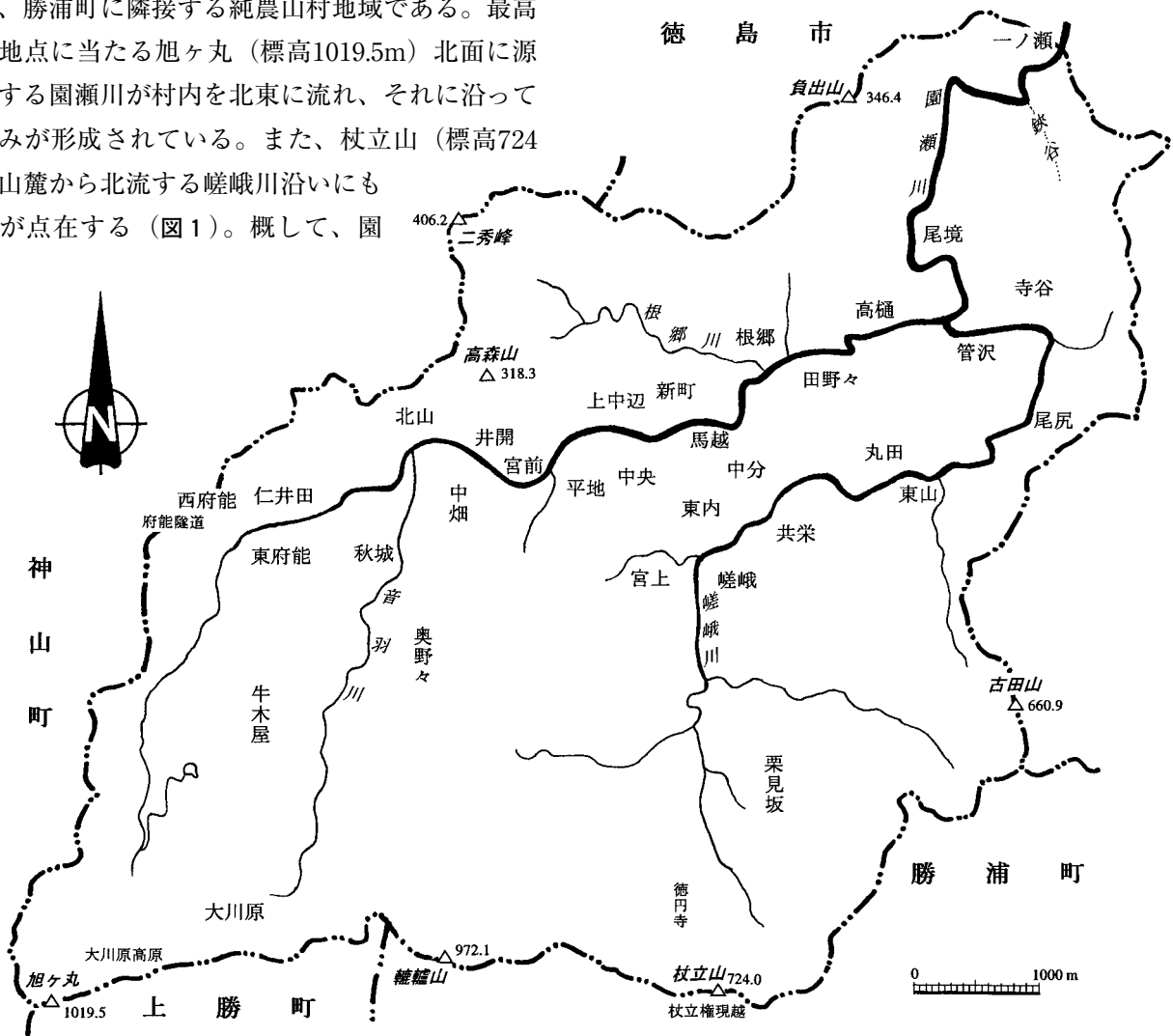


図1 佐那河内村の概略図

* 1 阿南市富岡町玉塚41-2

まではアカマツ、コナラ群落が山腹を覆う(写真2)。大川原高原放牧場では4月下旬から9月下旬まで、乳牛約30頭の放牧が行われている。

佐那河内村を対象とした平成13年度総合学術調査の一環として、鳥類の生息調査を実施した。調査は、(財)日本野鳥の会・徳島県支部に所属する7名が平成12年12月から同13年11月までの間、定点およびラインセンサス法により行った。すなわち、定点では最低30分間特定の地点にとどまり、その間に確認した鳥種とその個体数を記録した。またラインセンサスでは、あらかじめ定められたライン上を時速約2kmで歩きながら、観察者から半径25m以内で見聞したすべての鳥種とその個体数を把握するよう努めた(表1)。鳥類の調査に付随して得られた野生哺乳類についての生息データも同時に記録した。調査に際しては双眼鏡と必要に応じて望遠鏡、および望遠レンズ付きのカメラを常時携帯した。

結果は別表1および2の通りである。表では、確認した日付、場所、個体数を1種につき2件記載したが、1件しか記録を入手できなかった種もある。また、種を保護する観点から産地名をピンポイント

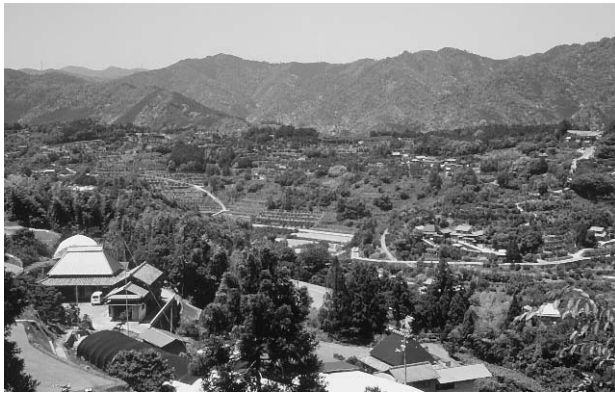


写真1 集落のある風景



写真2 共栄、東山方面をのぞむ

表1 ラインセンサスによる確認数(峡谷)

	2/11	2/27	4/2	4/17	5/26	6/18	7/28	8/25	9/19	10/20	11/14	繁殖可能性(%)
1.ミサゴ										0.5		20
2.トビ	+	+	+	+	+	+			+	+	+	60
3.オオタカ			+									20
4.ツミ				0.5								20
5.ノスリ	0.5										+	
6.サシバ				+								20
タカ科	+							0.5			0.5	
7.コジュケイ				+								60
8.ヤマドリ						0.5		0.5				80
キジ科								0.9				
9.キジバト	0.5	1.8	1.8	1.8	+		0.9	1.8	0.9	0.9	1.4	100
10.アオバト					+		+				+	60
ハト科	1.4	0.5	0.5		0.5			0.5				
11.ツツドリ				+	+							40
12.ホトギス					0.9	0.5	0.5					80
13.フクロウ					+							60
14.アオグラ		+	+	+	+	+	3.2	0.5	+	0.9		100
15.コゲラ	3.2	6.4	4.1	1.8	3.2	5.9	1.8	3.2	3.2	5.0	3.2	100
16.ツバメ			1.4		0.5		4.1	0.9	0.5			
17.コバクバク											8.6	
18.イワツバメ											9.1	
ツバメ科	+										1.8	
19.キセキレイ									0.5			
20.ビンズイ			0.5									
21.ヒヨドリ	5.0	5.0	5.0	8.6	13.2	20.0	15.0	15.9	13.6	45.0	26.8	100
22.モズ										0.5	+	
23.ルリビタキ			+									
24.ジョウビタキ		0.5									1.8	
25.シロハラ	1.4	2.7	+	0.9							0.5	
ツグミ科			0.9	0.9							0.9	
26.ヤブサメ			+	3.2	2.3	1.8	0.9	0.9				100
27.ウグイス	2.3	5.0	5.0	4.1	5.5	5.0	5.0	3.2	5.5	3.2	5.9	100
28.メボソシイ					0.9					0.5		
29.セウシイ			0.5	0.9	0.5	0.5						60
ウグイス科									0.5			
30.キクイタダキ	0.5	1.8									1.8	
31.キビタキ					1.8	1.8		0.9				100
32.オオルリ				1.4	0.5	+	0.5					100
33.コサメビタキ								0.5				40
34.サソコチョウ					0.5	0.5		0.5				100
35.エナガ	0.9	2.7	0.9	2.3	4.5	3.2	5.5	+	1.8	9.5	25.0	100
36.ヒガラ		1.4				+						20
37.ヤマガラ	4.5	6.4	4.1	7.3	6.4	3.6	4.5	8.2	9.1	7.7	5.5	100
38.シジュウカラ	2.3	2.3	0.5	0.9	1.4	2.7	1.8	1.4	1.4	2.3	2.7	100
39.メジロ	7.7	11.4	16.8	13.2	20.0	17.8	41.4	18.2	32.7	42.7	29.5	100
40.ホオジロ	2.3	1.4	3.2	5.9	4.1	3.6	2.7	2.7	1.8	7.7	1.8	100
41.カシラガカ											1.8	
42.ヤマホオジロ		4.1										
43.アオジ	1.8	2.7	3.2	2.3								0.9
44.クロジ	5.9	6.8	10.5	10.0								6.8
ホオジロ科	4.5	3.2	3.2	5.0								5.0
45.アトリ			0.5	+							1.4	
46.カワラヒワ	0.9	0.9	1.4	2.7	3.2	3.2	0.9	0.5	1.4	3.6	4.1	100
47.ウソ	0.5		+									+
48.イカル	+	0.5	4.5	1.8	1.4	0.5	+			1.8	+	60
アトリ科	0.9	2.3										
49.カケス	0.5	2.3	1.4	1.4						2.7	0.9	
50.ハシボソガラス	0.9		+	+	0.5					0.5	0.9	60
51.ハシブトガラス	2.3	1.8	1.8	3.2	3.6	1.8	+	+	+	1.8	2.3	60
不明種	0.9	0.5	0.9	1.4	1.8	0.5	1.4	0.5	1.4	0.5	0.9	
合計	51.6	74.4	72.6	81.5	77.2	73.4	90.1	62.2	74.3	158.2	130.9	
(種類数)	(19)	(20)	(19)	(20)	(20)	(17)	(15)	(16)	(12)	(21)	(19)	

全長1.0kmあたり(50m×1,000m)の換算値

(調査者:増谷正幸)

注1) + はコース外または復路で記録されたもの
2) 種類数に種名の不明なものとは含まない

に表記するのは避けた。敢えて場所名を記載しなかった種もある。悪しからずご理解いただきたい。

鳥類では14目35科93種の生息を確認した。その内コジュケイとドバトは、日本鳥類目録(2000)に従い外来種として区別した。哺乳類については8種を確認した。

2. 内陸、森林性鳥類

全93種の内73種(78%)が内陸、森林性の鳥類で占められた。以下に、その中から特筆すべき事例を挙げる。

1) クロツグミの繁殖

本種は夏鳥として中国南東部およびベトナム方面より渡来するが、分布が局地的で県内では全く見られない地域もある。しかし、佐那河内村を含む「東山溪県立自然公園」地域では、比較的高密度に生息している。それが何に起因するのかも解明されておらず、本種の繁殖生態については不明な点が多い。幸い今回の総合学術調査によって、5月31日、本種の営巣が確認された(写真3)。巣はスギの幼樹、地上3mほどの横枝に茂る葉上にあった。巣材は主に苔類を使用していた。発見時には4羽の幼鳥が親鳥から給餌を受けていた。巣立ち直前にまで発育しており、実際にその巣立ちを確認できた。

2) キバシリを捕獲

徳島県版レッドデータブック(RDB)に「絶滅危惧Ⅱ類」として記載されているキバシリ1羽が捕獲された(写真4)。本種は樹幹を螺旋状にずり上がりながら、樹皮に潜む昆虫やクモ類、小型巻貝などを捕食する。この特異な採餌習性や、限られた営巣空間などにより環境選択の幅が小さいため個体数が少ない一因と考えられる。付近は県内でも屈指の規模を誇るアカマツ林であった。なお、この捕獲個体は放鳥後勢よく飛び去ったことを付記する。

3) 繁殖期のハチクマ

その営巣を確認することはできなかったが根郷川に沿った高森山(標高318.3m)一帯で、しばしば目撃した(写真5)。もっぱらハチ類、特にジバチの幼虫や蛹を好食することから、餌資源が限られている。全国的に個体数が少なく、環境庁(現環境省)版RDBで「準絶滅危惧」、県版RDBでは「絶滅危惧



写真3 巣立ち直前のクロツグミ幼鳥



写真4 捕獲されたキバシリ



写真5 ハチクマ

Ⅰ類」とされている。1980年8月には、当地からほど近い徳島市上八万町で繁殖が確認されている。21年後の今日、最早本種が繁殖できる環境ではなくなりつつあると解釈すべきか。毎年のように繁殖期にハチクマを発見するが、そのペアやディスプレイ・フライトなどは未確認のままである。

4) アオバズクの繁殖

本種も県版RDB記載種で、その将来が危ぶまれている。鳩よりやや小さめのフクロウの仲間、夏鳥として毎年定まった木に渡来する(写真6)。多くは神社の杜などに残された大木の洞を営巣場所とし



写真6 警戒するアオバズク



写真7 営巣中のサンコウチョウ



写真8 育雛中のシジュウカラ



写真9 オシドリ

て利用している。人工林が62%を占める本県では、天然の樹洞は意外にも人家に近い社寺林に求め易いのかもしれない。その結果、人との生活空間の共有を余儀なくされ、街灯に集まる蛾やカブトムシなど昆虫を捕食し易い反面、交通事故やガラス面への衝突、防鳥テグス線の絡まり事故などが起きている。村内では、少なくとも2箇所の神社で繁殖している。

5) サンコウチョウの営巣

30数年前までは里山の溪流沿いの疎林で普通に見られた夏鳥であるが、激減した時期があった。現在では徐々に個体数の回復を思わせるが、決して多くはない。県内でも、まだ分布が局地的である。

村内では、園瀬川以北で少なくとも8ペア確認し3巣発見した(写真7)が、幼鳥の巣立ちを見たのは1巣のみであった。いずれもスギの細い横枝に造巣していた。スギの人工林は本来の生息環境ではないが、繁殖に成功することもあるようだ。

6) 巣箱の利用

「県立佐那河内いきものふれあいの里」のネイチャーセンター周辺には、毎年シジュウカラやヤマガラ用の巣箱を7個掛けている。気がかりなことに、その巣立ち成功率が近年低下している。本年度の成功例は1例のみであった。写真8は、育雛中のシジュウカラ(♂)である。この個体はネズミ用に掛けた巣箱を利用したため、哺乳類に襲われ失敗した。その他の失敗例については、原因不明のままである。

7) オシドリ

内陸・森林性鳥類でも水域から遠く離れることはない種がいくつかある。オシドリ(写真9)もその一つである。県版RDB記載種で希少種であるが、佐那河内村でも冬期を中心に少数ながら生息してい



写真10 ミゾゴイの古巣

る。近隣の神山町や相生町でも本種の繁殖が知られていることから、繁殖の可能性がある。

8) ミゾゴイの古巣

今回の調査では生息を確認できず、従って別表1にはないが、根郷川上流部でミゾゴイ (*Gorsachius goisagi* / コウノトリ目サギ科) の古巣 (写真10) を発見した。本種は環境庁版および県版RDB記載種で、世界でも日本だけにしか繁殖地をもたない貴重な鳥である。

3. 野生哺乳類

鳥類の調査に伴って確認された8種の中から2種について記述する。

1) ニホンリス

主に、南部のアカマツ林に少数生息している (写真11)。樹冠近くにおいて、その球果をかじっているのを見ることがある。スギの樹皮で造った球状の巣も発見されている。

2) タヌキ

夜行性で周年生息している。ネイチャーセンターではドッグフードに餌付いた数頭がビデオ撮影された。大川原高原近くの村道沿いに10月頃から幼獣2頭が、日中でも出現することがあった (写真12)。

4. おわりに

将来に渡って種が存続できるかどうかは、繁殖の成否にかかっている。このコンセプトから、ここでは主に貴重な繁殖事例を挙げてみたが、紙面の都合で省略せざるを得ない事例も多々あった。また、希少種を利己的に追うマニアの増加や、反社会的な行動を起こす極一部の輩の存在により、希少種の情報を公表できない矛盾も抱えている。従って、本調査結果は「佐那河内村の野鳥」の一部を垣間見ただけに過ぎない。限られた時間、限られた人員の中で、人事を尽くしたという満足感はあるものの、野鳥を取り巻く事態の深刻さを改めて思い知らされた。しかも、これは野鳥だけに終わる問題ではない。同じ生態系の一員であるヒトへの影響は避けられないにもかかわらず、敢えてその事実から目をそらそうとする風潮が現代社会にはある。

本文中、1)～8)のいずれの事例も、そこで取



写真11 ニホンリス



写真12 タヌキの幼獣

り上げた種だけが独立して生存しているわけではない。その種を取り巻く複雑に絡まり合った生態系全体の安定が保障されない限り、いずれその種は滅びてしまう。一角の保護では種を守ることはできないのである。

一つ希望にも似た事実がある。都市化の「指標鳥」とされるムクドリ (*Sturnus cineraceus* / スズメ目ムクドリ科) が今回の調査で確認されなかったことである。これは、佐那河内村がまだ「自然度」の高い環境を維持していることの証である。際限のない便利さと快適さを希求するあまり、全生命の生存基盤である「豊かな自然環境」そのものを破壊してしまうのではなく、「足るを知る心」をこれからもずっと持ち続けて欲しい。

調査参加者

笠井 正、東條 秀徳、西 義一、増谷 正幸、萬宮 翔平、三ツ井政夫、吉田 和人

写真撮影者

写真1・9・11：東條 秀徳

その他の写真：吉田 和人

文 献

日本鳥類目録編集委員会（2000）：『日本鳥類目録（改訂第6版）』日本鳥学会。

徳島県（2001）：『徳島県版レッドデータブック・徳島県の絶滅のおそれのある野生生物2001』徳島県。

東條秀徳（2001）：相生町の野鳥生息状況、阿波学会紀要第47号、阿波学会・徳島県立図書館、65～84頁。

日本野鳥の会徳島県支部（1985）：『徳島県野鳥図鑑』徳島新聞社。

別表1 佐那河内村野鳥目録

カイツブリ目 Order PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 Family Podicipedidae

1. カイツブリ *Tachybaptus ruficollis*
01/6/24・尾境・成鳥1羽、幼鳥2羽、01/7/29・尾境・1羽

ペリカン目 Order PELECANIFORMES

ウ科 Family Phalacrocoracidae

2. カワウ *Phalacrocorax carbo*
00/12/30・尾境・5羽、01/6/7・新町（園瀬川）・1羽

コウノトリ目 Order CICONIIFORMES

サギ科 Family Ardeidae

3. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*
01/3/14・尾境・1羽、01/5/27・寺谷・1羽
4. ササゴイ *Butorides striatus*
01/9/8・根郷・2羽、01/11/25・音羽・1羽
5. アマサギ *Bubulcus ibis*
01/6/24・尾境・19羽、01/7/1・寺谷・40±羽
6. ダイサギ *Egretta alba*
00/12/31・根郷・1+羽、01/5/27・一ノ瀬・1羽
7. チュウサギ *Egretta intermedia*
01/7/25・根郷・1羽、01/7/28・菅沢・2羽
8. コサギ *Egretta garzetta*
01/5/27・高樋・1羽、01/9/8・根郷・1羽
9. アオサギ *Ardea cinerea*
00/12/31・根郷・1羽、01/5/3・高樋・1羽

カモ目 Order ANSERIFORMES

カモ科 Family Anatidae

10. オシドリ *Aix galericulata*
01/4/18・大川原・4羽、01/7/25・尾境・3羽
11. カルガモ *Anas poecilorhyncha*
01/5/27・寺谷・1羽、01/7/25・尾境・1羽
12. コガモ *Anas crecca*
01/1/2・根郷・1羽、01/1/28・井開・11羽

タカ目 Order FALCONIFORMES

タカ科 Family Accipitridae

13. ミサゴ *Pandion haliaetus*
01/2/27・尾境・1羽、01/10/20・尾境・1羽
14. ハチクマ *Pernis apivorus*
01/6/3・根郷・1羽、01/6/24・根郷・1羽
15. トビ *Milvus migrans*
00/12/31・根郷・4羽、01/7/15・寺谷・5羽
16. オオタカ *Accipiter gentilis*
01/4/2・鉢谷・1羽、01/10/27・一ノ瀬・1羽
17. ツミ *Accipiter gularis*
00/12/4・大川原・1羽、01/4/17・鉢谷・1羽
18. ハイタカ *Accipiter nisus*
00/12/23・馬越・♂1羽、01/11/17・栗見坂・1羽
19. ノスリ *Buteo buteo*
01/1/28・音羽・1羽、01/11/25・東山・2羽
20. サシバ *Butastur indicus*
01/5/27・根郷・1羽、01/9/8・栗見坂・2羽

キジ目 Order GALLIFORMES

キジ科 Family Phasianidae

21. ヤマドリ *Syrnaticus soemmerringii*
00/12/27・栗見坂・1羽、01/8/25・尾境・1羽
22. キジ *Phasianus colchicus*
01/3/20・中畑・♂2羽、01/6/9・根郷・1羽

チドリ目 Order CHARADRIIFORMES

チドリ科 Family Charadriidae

23. イカルチドリ *Charadrius placidus*
00/12/30・尾境・2羽、01/5/27・尾境・1羽
- シギ科 Family Scolopacidae
24. イソシギ *Actitis hypoleucos*
00/12/30・尾境・1羽

ハト目 Order COLUMBIFORMES

ハト科 Family Columbidae

25. キジバト *Streptopelia orientalis*
01/7/15・寺谷・2羽、01/9/8・杖立権現越・1羽
26. アオバト *Sphenurus sieboldii*
00/12/16・東山・1羽、01/5/26・尾境・1羽

カッコウ目 Order CUCULIFORMES

カッコウ科 Family Cuculidae

27. カッコウ *Cuculus canorus*
01/5/19・大川原・1+羽、01/6/2・杖立権現越・1羽
28. ツツドリ *Cuculus saturatus*
01/4/18・大川原・1羽、01/5/20・奥野々・2羽
29. ホトトギス *Cuculus poliocephalus*
01/5/13・栗見坂・1羽、01/9/8・根郷・1羽

フクロウ目 Order STRIGIFORMES

フクロウ科 Family Strigidae

30. アオバズク *Ninox scutulata*
01/5/16・1羽、01/7/28・3羽
31. フクロウ *Strix uralensis*

01/5/26・寺谷・1羽

アマツバメ目 Order APODIFORMES

アマツバメ科 Family Apodidae

32. ヒメアマツバメ *Apus affinis*

01/6/9・根郷・3羽

33. アマツバメ *Apus pacificus*

01/6/2・丸田・2羽、01/9/8・栗見坂・4羽

ブッポウソウ目 Order CORACIIFORMES

カワセミ科 Family Alcedinidae

34. カワセミ *Alcedo atthis*

00/12/31・一ノ瀬・1羽、01/4/22・宮前・1羽

キツツキ目 Order PICIFORMES

キツツキ科 Family Picidae

35. アオゲラ *Picus awokera*

01/2/27・尾境・1羽、01/9/8・杖立権現越・1羽

36. オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*

01/5/17・大川原・1羽、01/6/8・牛木屋・1羽

37. コゲラ *Dendrocopos kizuki*

01/4/22・宮前・1羽、01/9/1・杖立権現越・1羽

スズメ目 Order PASSERIFORMES

ヤイロチョウ科 Family Pittidae

38. ヤイロチョウ *Pitta brachyura*

01/8/10・一・1羽

ツバメ科 Family Hirundinidae

39. ツバメ *Hirundo rustica*

01/7/15・寺谷・44羽、01/9/8・中分・3羽

40. コシアカツバメ *Hirundo daurica*

01/7/1・新町・2羽、01/10/20・尾境・13羽

41. イワツバメ *Delichon urbica*

01/10/20・寺谷・20+羽

セキレイ科 Family Motacillidae

42. キセキレイ *Motacilla cinerea*

00/12/24・尾尻・1羽、01/5/3・高樋・1羽

43. ハクセキレイ *Motacilla alba*

01/2/18・新町・1+羽、01/11/4・根郷・1+羽

44. セグロセキレイ *Motacilla grandis*

00/12/31・一ノ瀬・1羽、01/7/15・寺谷・1羽

45. ビンズイ *Anthus hodgsoni*

01/4/2・鉄谷・1羽

46. タヒバリ *Anthus spinoletta*

01/2/18・平地・3羽

ヒヨドリ科 Family Pycnonotidae

47. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

01/6/18・尾境・1羽(営巢中)、01/9/8・中分・1羽

モズ科 Family Laniidae

48. モズ *Lanius bucephalus*

00/12/16・東山・2羽、01/9/8・根郷・1羽

レンジャク科 Family Bombycillidae

49. ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

01/3/20・中畑・13+羽、01/4/12・東内・23羽

カワガラス科 Family Cinclidae

50. カワガラス *Cinclus pallasii*

00/12/24・尾尻・1羽、01/1/28・音羽・6羽

ミソサザイ科 Family Troglodytidae

51. ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

01/4/27・大川原・1羽、01/5/17・大川原・1羽

イワヒバリ科 Family Prunellidae

52. カヤクグリ *Prunella rubida*

01/1/8・大川原・1羽、01/3/10・西府能・2羽

ツグミ科 Family Turdidae

53. コマドリ *Erithacus akahige*

01/4/18・大川原・1羽

54. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

01/2/10・旭ヶ丸・1羽、01/3/10・西府能・1羽

55. ジョウビタキ *Phoenicurus aureoreus*

01/1/28・宮前・2羽、01/11/4・中分・1羽

56. トラツグミ *Zoothera dauma*

01/3/31・大川原・2羽、01/5/8・大川原・1羽

57. クロツグミ *Turdus cardis*

01/5/31・二秀峰・成鳥1羽、雛4羽、01/7/28・杖立権現越・1羽

58. シロハラ *Turdus pallidus*

00/12/16・東山・2羽、01/3/10・東府能・1羽

59. ツグミ *Turdus naumanni*

00/12/24・轆轤山・5羽、01/3/10・東府能・3羽

ウグイス科 Family Sylviidae

60. ヤブサメ *Urosphena squameiceps*

01/5/26・鉄谷・5+羽、01/9/8・杖立権現越・1羽

61. ウグイス *Cettia diphone*

00/12/16・尾尻・3羽、01/7/29・尾境・1羽

62. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

01/5/26・尾境・1羽、01/10/20・寺谷・1羽

63. センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*

01/4/2・尾境・1羽、01/5/26・鉄谷・1羽

64. キクイタダキ *Regulus regulus*

01/2/11・寺谷・1羽、01/11/4・杖立権現越・3+羽

ヒタキ科 Family Muscicapidae

65. キビタキ *Ficedula narcissina*

01/5/27・根郷・2羽、01/8/25・寺谷・幼鳥1羽

66. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

01/5/26・尾境・1羽、01/7/15・栗見坂・2羽

67. コサメビタキ *Muscicapa dauurica*

01/5/3・大川原・2羽、01/8/25・寺谷・1羽

カササギヒタキ科 Family Monarchidae

68. サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

01/5/27・根郷・1羽、01/8/25・寺谷・1羽

エナガ科 Family Aegithalidae

69. エナガ *Aegithalos caudatus*

01/5/27・尾境・21羽、01/11/4・杖立権現越・1+羽

シジュウカラ科 Family Paridae

70. コガラ *Parus montanus*

00/12/9・井開・1羽、01/3/3・負出山・1羽

71. ヒガラ *Parus ater*

01/3/10・西府能・3羽、01/7/28・杖立権現越・1羽

72. ヤマガラ *Parus varius*
00/12/16・東山・2羽、01/7/15・徳円寺・1羽
73. シジュウカラ *Parus major*
01/2/10・旭ヶ丸・1羽、01/9/8・中分・1羽
キバシリ科 Family Certhiidae
74. キバシリ *Certhia familiaris*
01/4/28・大川原・1羽
メジロ科 Family Zosteropidae
75. メジロ *Zosterops japonicus*
01/5/9・大川原・雛1羽、01/5/26・尾境・8±羽
ホオジロ科 Family Emberizidae
76. ホオジロ *Emberiza cioides*
01/1/28・音羽・7羽、01/3/18・東府能・4羽
77. カシラダカ *Emberiza rustica*
01/1/11・大川原・30+羽、01/11/14・尾境・3羽
78. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*
00/12/19・寺谷・10+羽、01/3/10・西府能・4羽
79. アオジ *Emberiza spodocephala*
01/1/28・音羽・2羽、01/3/10・西府能・1羽
80. クロジ *Emberiza variabilis*
01/1/2・高樋・1羽、01/11/14・寺谷・7+羽
アトリ科 Family Fringillidae
81. アトリ *Fringilla montifringilla*
01/1/12・大川原・40+羽、01/4/17・鉢谷・10+羽
82. カワラヒワ *Carduelis sinica*
00/12/16・東山・2羽、01/6/2・杖立権現越・1羽
83. マヒワ *Carduelis spinus*
00/12/24・轆轤山・20+羽、01/1/12・大川原・80±羽
84. ベニマシコ *Uragus sibiricus*
01/2/10・旭ヶ丸・1羽、01/2/20・大川原・4羽
85. ウソ *Pyrrhula pyrrhula*
00/12/30・大川原・4羽、01/2/11・尾境・1羽
86. イカル *Eophona personata*
01/1/28・新町・6羽、01/4/2・寺谷・10+羽
87. シメ *Coccothraustes coccothraustes*
01/11/4・中分・1羽
ハタオリドリ科 Family Ploceidae
88. スズメ *Passer montanus*
01/1/2・中分・2羽、01/9/8・根郷・24羽

- カラス科 Family Corvidae
89. カケス *Garrulus glandarius*
01/2/10・旭ヶ丸・2羽、01/10/20・尾境・1羽
90. ハシボソガラス *Corvus corone*
01/7/29・尾境・2羽、01/11/4・杖立権現越・1羽
91. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*
01/7/15・寺谷・1羽、01/11/4・中分・2羽

(外来種)

- キジ目 Order GALLIFORMES
- キジ科 Family Phasianidae
92. コジュケイ *Bambusicola thoracica*
01/6/2・中分・1羽、01/6/2・丸田・1羽

ハト目 Order COLUMBIFORMES

- ハト科 Family Columbidae
93. ドバト *Columba livia*
00/12/31・根郷・1羽、01/11/4・根郷・1羽

別表 2 佐那河内村野生哺乳類目録

1. モグラ (モグラ目モグラ科)
01/7/29・根郷・1頭
2. ニホンザル (サル目オナガザル科)
01/6/3・根郷・7頭、01/6/16・牛木屋・1頭
3. ノウサギ (ウサギ目ウサギ科)
01/7/8・根郷・1頭、01/7/20・大川原・1頭
4. ニホンリス (ネズミ目リス科)
01/5/5・杖立権現越・1頭
5. タヌキ (ネコ目イヌ科)
01/4/17・大川原・1頭、01/11/14・大川原・2頭 (幼獣)
6. テン (ネコ目イタチ科)
01/4/18・大川原・1頭、01/8/25・尾境・1頭
7. アナグマ (ネコ目イタチ科)
01/5/10・大川原・1頭、01/6/8・牛木屋・1頭
8. ニホンイノシシ (ウシ目イノシシ科)
01/9/19・寺谷・16頭